

---

# 呪虫

中田 勸

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

呪虫

### 【Nコード】

N1458N

### 【作者名】

中田 勘

### 【あらすじ】

伊左衛門という男が遠出をして山道を歩いている途中に豪雨が降り無人の山小屋に泊まり、彼はそこで悲劇にありました。

昔、伊左衛門という男が遠出をしているときの事です。

伊左衛門が山を歩いているとき、とつぜん豪雨が降り始めました。どこか雨宿りできるところは無いかとあたりを見渡していると、幸いにも山小屋を見つけました。

伊左衛門は喜んで山小屋に入りました。

その山小屋は雨のため湿気を持っていましたが雨漏りもあまり無いところでした。

暖を取るには毛布しかなく伊左衛門はそれに包まっていました。

伊左衛門は寝ようとしたましたが表が豪雨なため眠気が来るまで寝ることが出来ませんでした。

昨晩は寢床が無くてはかなわないと早寝を心がけていました。

おかげで今日は寝つきが悪いことも承知でした。

どのくらい時間が経ったでしょうか。

カサカサカサ、という音がしました。

その音は虫が這いずる音によくにてました。

伊左衛門は不気味になって寝返りを打ちました。

すると小屋の奥に多くの目を持った虫を見た気がしました。

伊左衛門は怖くて堪りませんので反対の方向を向こうと寝返りを打とうとしますが体思うように動きません。

それは金縛りでなく力で無理やり縛られているようで、動くのに大変な労力を払わなくてはならないのです。

伊左衛門はあきらめて虫を見た方向を見ました。

すると今度は虫が確実に見えました。

それもさつきより近い場所で、そこで見たものは赤い複眼をもってよだれをたらしているクモでした。

伊左衛門には叫ぶ事も、目をつぶることもありません。

クモを見ていると腹部に強烈な痛みを感じました。

それはまるで害虫の大きな卵を産み付けられたような感覚でしたが胃液が逆流する事はありませんでした。

伊左衛門の苦しみは大層なものでしたが、その姿は周りから見ただけでは目を開けて寝転んでいるようです。

幾分か時間がたちました。

伊左衛門は自害したくなる位に苦しんでいました。

そこへ幸運か不運か、伊左衛門は息が出来なくなりました。

まるで毒を盛られたようでも疲労しましたので息は荒れてゆきました、しかし息は吐くことしか出来ません。

伊左衛門が最後に見たものは様々な虫でした。

伊左衛門は数日後にあの山小屋で見つけられました。

その姿は悲惨なものでした。

クモの糸で縛られたように白い糸で体の形が変化するほど全身を締め付けられ。

ゴキブリにでも繁殖の場とされたように死体は腐りきって。

蚊に吸いつくされたかのように体は干乾びきって。

蜂の毒にでもやられたかのように全身まっ青で。

カマキリにでも切られたかのように体中に深い切り傷があり、頭部は縦半分に切られて首の部分で再びくっ付いていて。

アリの万力でやられたかのように全身の骨は俺に折れ。

何者の所業が見当もつかないのですが、眼球がくり貫かれて、全身の皮膚をはがされていました。

あえて言うなら虫の卵が眼のあったところに植え付けられていたような、無理やり脱皮させられたような状態でした。

その殺戮の被害者である伊左衛門は目はなかったものの無表情であったといわれています。

その話を聞いた家族のものは、悲しむ素振りもせずただ一言『やはりそうになりましたか』と口々に言うのでした。

幼少の頃から成人しても虫を娯楽の一環として殺してきた彼の死を、虫の呪いで死んだと言われて信じないものはいませんでした。

伊左衛門の死体は骨になっても回収される事はありませんでした。きっと今頃地獄で虫たちによって苦しめられている頃でしょう。

ところで家族の話では、伊左衛門の遠出の目的とは今まで虫を殺してきたことを悔い改めるため、虫の神様が祭られている地に訪れることだったそうです。

（後書き）

これで十作品目です。

テレビを見ないためかこの季節でも怪談はあまり見れません。

あえていうなら怪男ぐらいでしょうか。

あと蚊に血を吸い尽くされるのは到底ありえませんか。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1458n/>

---

呪虫

2010年10月10日18時59分発行